

2019年度 ドコモ市民活動団体助成事業

選考のポイントの考え方

NPO法人モバイル・コミュニケーション・ファンド

2019年2月25日

◆選考のポイント＝本助成プログラムのめざすポイント

(1)目標（活動の上位目標、活動目標、成果目標）と成果の測定手法の設定

ポイント

子どもを取り巻く望ましい社会の姿を見据え、団体のめざす社会的な役割が、分かりやすく設定されているか。（＝活動の上位目標）
そして、この活動の上位目標に基づき、活動目標と成果目標がそれぞれ明確に設定されているか。さらに、活動の成果（アウトカム）を測定するための適切な手法の提案があるか。

説明

本助成事業では、事業終了後の具体的な活動の成果（アウトカム）について、分かりやすく確認できることを重視します。そこでまず、子どもを取り巻く望ましい社会状況を見据え、今後、団体がめざす社会的役割を設定いただきます（＝活動の上位目標）。この活動の上位目標に基づき、2019年の活動目標と成果目標を設定するとともに、活動の成果（アウトカム）を可能な限り定量的に計測するための指標および測定手法の提案を求めます。

望ましい提案の例

（目標について）

- 活動の上位目標が分かりやすく明確で、それに向かって3年間で必要となる活動の内容が段階的に分かりやすく記入されている。
- 成果目標として、活動の対象となる受益者の3年後を予測し、1年間の活動を通じてどのように変化・向上するのか、定量的なデータにより、分かりやすく記入されている。

（成果測定等について）

- 団体におけるこれまでの経験や専門知識に基づき、現実的な成果の測定手法が記入されている。

（事例）

- ・実際に経年的な測定実績のあるアンケート調査が提案されている
- ・活動やイベント終了後に配付するアンケートの設問と集計のイメージが示されている

過去の提案で好ましくない例

（目標について）

- アウトカムについて記入はされているが、参加者の感想や満足度を確認するというレベルの記述にとどまっている。（施策改善や新たな施策の検討に結びつかない）

（効果測定について）

- 効果測定手法が練られていない。あるいは単純に「アンケート調査を実施する」という趣旨の記入があり、具体的にどのように測定・集計し、その上でデータをどのように活用するのかが伝わっていない。

◆選考のポイント＝本助成プログラムのめざすポイント

(2)子どもを取り巻く地域課題・子どものニーズの理解

ポイント

活動対象地域における特有の現状として、子どもを取り巻く課題や子どものニーズを的確に捉えているか。

説明

本助成事業では、子どもを取り巻く課題や子どものニーズに関する現状把握の的確さを重視します。
そこで、活動対象地域の現状を示す具体的なデータ、また、団体が活動する中で得られる特有のデータに基づいて現状の分析が行われている提案を求めます。現状分析は、可能な限り数値を用いて定量的に行うことで、現状やその変化を客観的かつ分かりやすく捉えることが可能となります。

望ましい提案の例

- 活動地域や子どもの状況等について、団体特有のデータに基づいて現状分析が行われている。また、活動地域で独自に調べたデータが記入されている。(事例)団体が実施した調査では団体を訪れる子どもの保護者の○%は、××の傾向があった。
- 公的な統計情報の言及に加え、団体で独自に実施している調査により、地域の課題や子どものニーズが実際の体験・経験に基づき、分かりやすく説明されている。
- 地域課題が構造的に把握されていることで、その背景にある要因がしっかりと検討されている。その背景・要因に基づき、子どものニーズが説明されている。
- 受益者を定量的な観点からいくつかに分類して、的確にターゲットが設定されている。

過去の提案で好ましくない例

- 全国的なデータ等の一般論に基づいて現状分析が行われているにとどまる。
- 地域課題や子どものニーズについて、団体が直接把握している情報のみが記入されている。(客観的な確認や検証が難しい)
- 地域の課題について、要因や背景の分析や説明がない。そのため、結果として、子どものニーズの理解につながる説明が記入されていない。
(事例)近年、児童虐待の報告数が××に達し、その対応が求められている…。(要因や背景の分析、説明がない)

◆選考のポイント＝本助成プログラムのめざすポイント

(3) 具体的かつ現実的な計画性

ポイント

現状と課題を踏まえ、外部のネットワークの活用など、具体的かつ現実的な計画が立てられているか。また、申請予算が活動内容と整合し、適正かつ妥当性・効率性のある金額となっているか。

説明

本助成事業では、具体的かつ現実的な計画を重視しています。また、子どもを取りまく課題や子どものニーズを踏まえたものを求めます。そのため、無理ない効率的なスケジュールや実施体制が組み立てられているか、外部ネットワークとの連携が提案されているか等について確認させていただきます。

望ましい提案の例

- 実施体制やネットワークが充実しており、無理のない計画（活動内容、スケジュール及び実施体制）が立てられている。
- 活動の進捗状況と改善策について、定例会議の中で話し合う場が設定されるなど、全体の進捗管理、マネジメントのことについても、明確に言及がある。
- NPO・企業・行政等との協働関係を構築し、互いに補完する関係が具体的に記入されている。

過去の提案で好ましくない例

- 計画（活動内容、スケジュール及び実施体制）が一見して練られていない。
- 5W1Hが意識されておらず、単に実施する活動のことだけが記入されている。特に、目的や活動の受益者、その狙いが記入されていない。
- 連携する団体について、具体性が乏しい。団体名だけが列挙されている。

◆選考のポイント＝本助成プログラムのめざすポイント

(4)積極的かつ効果の高い情報発信

ポイント

受け手を意識した積極的かつ効果の高い情報発信の方法が具体的に提案されているか。

説明

本助成事業では、申請団体の積極的かつ効果の高い情報発信を重視します。そのためには、実施する活動に関して、一方的な情報発信ではなく、受け手を意識した情報発信を行うことで、実施する活動について「共感」を得るとともに、その認知を広げ、様々な課題の改善につなげることが重要です。具体的には、地域メディアとの連携、分かりやすい報告書・レポートの作成、報告会の開催など、複数の媒体を通じた情報発信活動が求められます。

望ましい提案の例

- 受け手を意識して、情報発信の具体的な効果が記入されている。また受け手の想定とその狙いに基づいて、情報発信の頻度（月1回、3ヶ月に1回等）などが記入されている。
- 地域の行政やメディアを巻き込み、効果的にPRするような工夫が見られる。

過去の提案で好ましくない例

- 情報発信するメディアが列挙されているだけで、受け手の想定とその狙いが記入されていない。
- 活動の周知・PRのみの記入となっている。活動の予定だけが周知されているが、活動の結果や成果がどのように報告されるか説明されていない。

◆選考のポイント＝本助成プログラムのめざすポイント

(5)活動の継続性と普及・拡大の工夫

ポイント

助成期間終了後も活動の継続性が見込めるか。また、他地域への水平展開、他団体への提案・アドバイス等を含め、活動の中で得られた知見・ノウハウを普及・拡大させる工夫があるか。

説明

助成期間終了後も継続して活動を行い、また、助成を受けた事業で得られた知見やノウハウを、同じ分野で活動している他の団体と共有することができる取組み（ロールモデル）となることを期待しています。そのためには、活動の成果を広く公表し、支援者・ボランティアからの支持を得ながら、活動をもり立てるための工夫に関する提案を歓迎します。結果として、望ましい変化を、受益者の子どもたちと社会に起こしてほしいと考えています。

望ましい提案の例

■ マニュアルや研修プログラムなどを有償で外部に提供するなど、活動の継続のための自主財源の確保や活動の成果を外部に向けて普及させる工夫がある。

■ 企業と連携するなどして、ノウハウを有償で提供するための工夫が記入されている。

(事例)

企業参加のロールモデルを構築し、企業の賛助会員を増加させる

過去の提案で好ましくない例

■ 普及拡大のための工夫が見られない。単にPRをするという記入になっている。

(事例)

(現在の取組の延長線上にある) ●●活動の普及のため、シンポジウムを開催するとともに、情報発信を進める。・・・

■ 自団体の取組みについて、希望的観測や必要性のみが記入されている。

(事例)

今後、●●することが求められている。そのため、行政や地域の間接支援組織との連携を強化する。・・・

◆申請される団体の皆様へのお願い

ご応募の際には、提出する申請書を一度プリントアウトするなどして、改めて団体メンバー全員で共有してください。そのことで誤字脱字、字ずれなどの体裁面だけでなく、誰にでも理解できるわかりやすい記入となっているか等のご確認をいただけますと、事務局にて適切に審査・確認をすることができます。
ご協力の程、よろしくお願いいたします。

●お問い合わせ先

NPO法人モバイル・コミュニケーション・ファンド
(MCF) 事務局

URL : <http://www.mcfund.or.jp/>

E-mail:info@mcfund.or.jp

詳細はこちらから
ご覧ください！

